

令和2年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：平成31年4月 1日
至：令和 2年3月31日

令和2年9月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1. 学校関係者評価の目的と基本方針 2
- 2. 学校関係者評価委員名簿 3
- 3. 学校関係者評価委員会の実施状況 5
- 4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 5

II 学校関係者評価報告書の見方

- 1. 自己評価結果の結果集計 7
- 2. 委員コメント 7

III 学校関係者評価委員会評価結果報告書

- 1. 総評 8
- 2. 項目別評価結果
 - 教育重点項目 9
 - 重点項目 1 9
 - 重点項目 2 11
 - 評価項目の達成及び取組状況
 - (2) 学校運営 13
 - (3) 教育活動 13
 - (4) 学修成果 17
 - (7) 学生の募集と受け入れ 17
 - (8) 財務 19
 - 総合評価【学校の改善に資するご意見】 21

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和2年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価／学校関係者評価

- ①第1回目(9月)に実施する委員会は、令和元年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、令和2年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。また、令和2年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

| 属性 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|-----------|--------|-------------------------------|---------------------------------|
| 企業 | 杉本 武史 | 株式会社ぴえろ | 人事総務部 リーダー |
| | 石本 則子 | 株式会社スタジオフェイク | 代表取締役 |
| | 井沢 祐 | 株式会社スタジオフェイク | 研究開発部 ディレクター |
| | 舟山 大器 | 株式会社横浜環境デザイン | 社長室長 |
| | 新 和也 | オートデスク株式会社 | メディア&エンターテインメント テリトリースマネージャー |
| | 渡邊 登 | 合同会社ワタナベ技研 | 代表 |
| | 佐々木 伸彦 | ストーンビートセキュリティ株式会社 | 代表取締役 |
| | 伊藤 好宏 | 日本サード・パーティ株式会社 | 技官 |
| 職能団体 | 篠原 たかこ | CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会) | 教育事業部 事業部長 |
| | 満岡 秀一 | 一般社団法人 IT 職業能力支援機構 | 理事 |
| | 森 まり子 | 東京商工会議所 新宿支部 | 事務局長 |
| | 原 洋一 | 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 | 理事・事務局長 |
| | 米井 翔 | 一般社団法人組込みシステム技術協会 | 研修委員会 副委員長 |
| 高校教員 等 | 勝間田 清一 | 日本大学生物資源科学部 | 非常勤講師 |
| | 松下 秀房 | 目白研心中学校・高等学校 | 理事 校長 |
| | 清水 潤一 | 株式会社ウィザス | 教育運営部 教務 ICT 推進室 室長代行 |
| 日本語学校 | 会田 由紀子 | 東京ギャラクシー日本語学校 | 教務部 副部長 |

| | | | |
|------|--------|-------------------|--------------|
| 卒業生 | 谷 伸城 | 株式会社アプリケーションプロダクト | プロジェクトマネージャー |
| | 中山 秀昭 | 日本電子専門学校同窓会 | 副会長 |
| 保護者 | 本郷 幸子 | | |
| | 厚川 万里子 | | |
| | 竹中 伸江 | | |
| 地域住民 | 小澤 博太郎 | 百人町西町会 | 会長 |
| 在校生 | 大久保 匠真 | コンピュータグラフィックス研究科 | 3年生 |
| | 阿部 一恵 | コンピュータグラフィックス科 | 2年生 |
| | 新井 大成 | ゲーム制作科 | 2年生 |
| | 松井 双綺 | 高度情報処理科 | 2年生 |

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和2年度第一回学校関係者評価委員会実施日時

日時：令和2年8月21日（金）～令和2年9月11日（金）

2) 学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、委員会で集合することを避け、委員に必要資料を郵送し、評価を依頼した。

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和2年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、令和元年度における「教育重点項目」2項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」11分類63項目であり、合計65項目である。

『令和2年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和2年度自己評価報告書』を用いて、「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書 記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成 25 年 8 月 30 日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

- (1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む）について検討する委員会。

< 中 略 >

教育重点項目

| | 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、 不適切：1、無該当：0 |
|------|-----------------------|-------------------------------------|
| 重点-1 | 職業実践専門課程への申請は十分に行われたか | 4 ③ 2 1 0 |

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の評価方法の説明書を読み、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

学校関係者評価 評価記入シート 例

教育重点項目

重点項目 1 職業実践専門課程への対応

| | | |
|------|---|-----|
| 評価結果 | ⓐ | 不適切 |
|------|---|-----|

コメント欄

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 27 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

今回の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法を変更し、評価用の自己評価報告書を郵送いただきました。

評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生が、それぞれの立場から、郵送された自己評価報告書を基に、評価を行いました。

自己評価報告書の内容につきましては、前回同様「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と評価が変わった項目」について記載しており、全文の自己評価報告書をホームページで閲覧できるようにしていただいていたため、通常とは違う形ではありましたが、委員の皆様も無理なく評価が行えたと思います。

自己評価報告書に基づく委員の評価につきましては、ほとんどの項目で適切との評価がつけられており、取り組みの内容もよく理解されていきました。また今回はコロナ禍についてのご意見も多く、今後コロナ禍での学校運営、学生の安全を図りながらの教育の質保証の方策を検討していく必要があると感じました。

尚、今回は、委員の皆様からの自由意見を伺うことができませんでしたので、次回の委員会にて時間を設け、意見を伺うことといたします。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願いいたします。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

教育重点項目

重点項目1 NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：24 88.9% | 不適切：3 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

①学科別ポリシー作成はH30が1学科、H31-R1は半数が完成に至っていないという事実のみを判断するべきでしょう。コロナ禍という理由に目を向けて評価基準を変えるのではなく、未達成だがコロナ禍による未達である点を加味する、という判断が正しいと思います。特にH30の目標であるゲーム制作研究科が未達なのは問題で、早急に対策が必要かと考えます。

また基本理念策定プロジェクトについては教員評価に加え、多角的な評価として学生からの評価も加えてみると教員の自主評価と学生評価の一致・不一致が明確になり、人材評価にもつながると思われまます。ぜひご検討ください。以前の委員会よりNEXT10は何かを決めて終了ではなく継続的な取り組みと改善、決めたポリシーを学校へ根付かせることが肝要だと申し上げております。次年度はフェーズを変え、学校への浸透や洗練を目標としていただきたく存じます。（石本）→**不適切**

②ポリシー策定の進行が予定より遅れている、特に令和元年度は半数が未達成という状況の中で、適切側の評価（③以上）をされる点に違和感を感じたため。

（井沢）→**不適切**

③未完に終わったポリシーが存在する点などを考慮すると、評価は妥当であると考えられます。（舟山）→**適切**

④ポリシーの策定に関して、未完の学科があるとのことですが、改善策に具体的な記載が無いのは、今後も遅れる可能性が出てくるのではないかと思いますので、遅れた原因などを分析して、確実に実施できる方法もしくは状況によってはスケジュールを変更する必要があるのではないかと思います。また「教員の行動指針自己診断」の3回目になぜ実施率が下がっているのかも気になりました。むしろ今後の学校を改善するためのことなので、100%を目指すべきじゃないかと思います。（新）→**適切**

⑤さまざまな事情、環境の変化による不測の事態によりスケジュールがずれ込んでいますかと思えます。完成度38.1%となっているようですが、目標を立てた時点での想定されていた状況とは、乖離が発生している場合には、現状に見合った形で再スケジュールを検討されるのもよいかと思いました。（伊藤）→**適切**

⑥着実に実行しているので、継続を期待しています。（篠原）→**適切**

⑦「教員の行動指針自己診断」結果にて、体調管理・整理整頓が他と比べて低いスコアだったので教員の業務の高負荷が原因ではないかと感じてしまいました。心配です。（満岡）→**適切**

⑧期初のスケジュール通りに学科別ポリシーを策定できなかったことは残念ですが、年度終盤は新型コロナウイルス対応を最優先せざるを得ませんでしたので、やむを得ない結果でした。令和2年度に昼間部21学科すべてのポリシーの完成・公開を期待致します。（森）→**適切**

- ⑨学校の柱でもある NEXT10 を絶え間なく努力していることに敬意を表します。引き続き、進めていただけるものと思っています。(原) →適切
- 3/6 学科のポリシーが未完である為。今後の改善方法にあるように令和 3 年度の入学
者向けのカリキュラム作成に反映できるよう計画書を作成する。(佐々木) →不適切
- ⑩改善策が示されており、「ほぼ適切：3」が妥当と判断します。(米井) →適切
- ⑪未完成学科は、反省色が見られるようであるので次年度で努力か。(勝間田) →適切
- ⑫年度末の社会的状況ではやむを得ない。(松下) →適切
- ⑬着々とポリシー策定・完成を進められていると感じました。(清水) →適切
- ⑭現時点で、全体での完成度が約 4 割、残りを今年度中に完成ということで、相当な
努力が必要かと存じます。進捗状況からも「3」で適切だと思います。(会田) →適切
- ⑮教員の行動指針自己診断」における実施率が 2 回目→3 回目で低下しています。
こちらについても分析・評価の対象にしていかれることを期待します。(なぜ、自己診
断を実施する動機が低下しているのか。)(谷) →適切
- ⑯建学の精神に基づき、教育の基本方針がしっかりとされていると思われる。(小澤)
→適切
- ⑰未完成なポリシーは完成に向けて進めてほしいと思います(厚川) →適切
- ⑱教員の行動指針、自己診断は教育の質の保証・向上に役に立っていると思います。
生徒にも実施できたら意識の向上になり、ドロップアウト対策になると思いました。
(竹中) →適切
- ⑲これまでに引き続き様々な取り組みによって他の専門学校にはない強みが出せてい
て、これからも継続してほしいなと思いました。(大久保) →適切
- ⑳完成予定が大幅に過ぎてしまっているの、令和 2 年度には完成させてほしい。(阿
部) →適切
- ㉑適切な評価を行えており、課題や改善方法を明確にできていて問題ないと思います。
(新井) →適切
- ㉒ポリシー策定プロジェクト年度別進捗状況と照らし合わせてみて評価は妥当である。
(松井) →適切

重点項目2 新教育体制の確立

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：25 92.6% | 不適切：2 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

① コロナ禍をどう体制を確立していくかはあらゆる学校や企業においても重要な課題である。(杉本) →適切

② 古賀先生から船山先生への移譲もスムーズに行われました。意欲的な改革は高く評価できます。特に iU の開学にあわせ広報の業務切り分けを実施したこと、女性部長の登用は素晴らしい実績で、個人的には適切相当でも良かったように感じます。来期は潜在的な問題の掘り起こしを期待しております。(石本) →適切

③ 組織体制の変更があつてから間もなくのコロナ状況に見舞われた点、お察しいたします。(井沢) →適切

④ 新教育体制の確立については、コロナは誰も予測できなかった点を考慮すると自己評は厳しいとは思えるものの、詳細化完了まで至らなかった事実だけを取り上げると、適切な評価とも言えると考えます。(舟山) →適切

⑤ 新しい人事組織の構築、また、コロナ禍での対応はどこも未だに答えのない中での対応となっているため、職員の時差通勤および時短勤務の延長や在宅勤務の導入など、スピーディーに適切に対応できているのではないかと思います。(新) →適切

⑥ 適切だと考えます。(伊藤) →適切

⑦ コロナ影響における3の自己評価は妥当だと思います。(満岡) →適切

⑧ 課題と改善方法を具体的に示す必要がある。今後も100%の体制を確立することは難しいと考えられ不完全な中での業務体制の計画書が必要である。(佐々木) →不適切

⑨ 新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでに経験したことのない試練に直面しております。恐らく長期的な対応が必要となりますので、十分な体制を確立して頂きたいと思います。(森) →適切

⑩ 突発的な新型コロナというものの対応には良くされているとは思いますが課題はたくさんあると思います。課題が明確になっている分これからの対応が重要だと思いますので、引き続き、頑張ってください。(原) →適切

⑪ 「ほぼ適切：3」が妥当と判断します。報告書からは改善点は見当たりませんので、「適切：4」としても良いくらいではないでしょうか。(米井) →適切

⑫ コロナで大変でした。教職員も学生もご苦労があったと思います。(勝間田) →適切

⑬ 前年度終盤は新型コロナ感染症禍で、学校行事等の変更が余儀なくされているわけだから、当項目に関しての評価は4が妥当と考える。(松下) →不適切

⑭ コロナの影響もあったと思いますが、教育部署の刷新が図られ、相違点についてもしっかりまとめられていると感じました。(清水) →適切

⑮ 様々な困難な環境下にあります。新体制で乗り越えてもらいたいと思います。(小澤) →適切

⑯ 今後も新型コロナウイルス感染対策、対応をお願い致します。(本郷) →適切

- ⑰ このような状況の中で大変だと思いますがよろしくお願ひいたします。(厚川) → 適切
- ⑱ コロナ騒動で授業がオンライン化になって様々な支障が出ると思ひましたが、Gsuiteの導入など、迅速な対応のおかげであまり混乱せずにオンライン授業を受けることができていると感じています。(大久保) → 適切
- ⑲ 今年は新型 コロナウイルスの影響で大変なことがたくさんあったと思うが、乗り越えて体制確立に向けて頑張ってほしい。(阿部) → 適切
- ⑳ 新型コロナウイルス感染症禍のなか、リモート授業など体制を整えることができ適切な評価が行われていると思ひます。しかし、前期授業の開始時期がほかの学校に比べ遅れ気味だったとも考へております。(新井) → 適切
- ㉑ 新教育体制は明確化されておひ評価は妥当である。(松井) → 適切

評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

2-8 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか

| | | |
|------|---------------|-------|
| 評価結果 | 適切：27 100% | 不適切：0 |
|------|---------------|-------|

コメント欄

- ①書面上、明確化されていると思います。(井沢) →**適切**
- ②大学法人へというハードルを乗り越え頑張って頂いたと思います。適切です。(舟山) →**適切**
- ③大学法人としての基本的な規則・規定が滞りなく実施されている。(佐々木) →**適切**
- ④「規則・規定の明確化」は、明記されているようですが、「有効に機能しているか」の評価コメントの記載もご検討されると、尚よいと思います。(伊藤) →**適切**
- ⑤コロナ禍において、定例会議が実施されていたのかが気になりました。(満岡) →**適切**
- ⑥良く対応されていると思います。(原) →**適切**
- ⑦「適切：4」が妥当と判断します。(米井) →**適切**
- ⑧良いと思います。(勝間田) →**適切**
- ⑨「有効に機能しているか」という観点で評価を実施されているか不明瞭と感じます。(谷) →**適切**
- ⑩寄附行為等の規定により運営組織、意思決定機能は明確にされ、それぞれの会議体によって有効に運用されていると思います。(小澤) →**適切**
- ⑪明確だと思います(厚川) →**適切**
- ⑫縦のつながり、横のつながりともに明確に連携しているとわかりますが、もっと密接に授業内容等の連携もしてほしいかなと思いました。(大久保) →**適切**
- ⑬運営組織などは、学校のウェブサイトで明確化されていた。(阿部) →**適切**
- ⑭適切に評価できていると思います(新井) →**適切**
- ⑮運営組織、意思決定機能は規則等で明確化されており、評価は妥当である。(松井) →**適切**

(3) 教育活動

3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：26 96.3% | 不適切：1 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

- ①カリキュラムがより充実し、学生の質が向上することを願います。(井沢) →**適切**

- ②いつも計画的に見直しをしている点は素晴らしいです。自己評価は妥当だと思います。(舟山) →**適切**
- ③カリキュラムに関してはポリシーの策定と連動しているので、編成できていないのは現段階ではしょうがないと思います。(新) →**適切**
- ④適切だと考えます。(伊藤) →**適切**
- ⑤意欲的に教育活動に取り組まれていることがうかがえる。引き続き継続されることを期待します。(篠原) →**適切**
- ⑥「より充実」とは、具体的にどのようなことかを知りたかったです。(満岡) →**適切**
- ⑦ポリシーの重視に賛同します。(原) →**適切**
- ⑧教育重点項目1にもあるように、3/6学科のポリシーが未完であり、ポリシー策定が完成していない為。今後の改善方法にあるように、速やかなポリシー策定と共にカリキュラムの更新が必要である。(佐々木) →**不適切**
- ⑨課題・今後の改善策ともに具体的な記載があるため「ほぼ適切:3」が妥当と判断します。(米井) →**適切**
- ⑩科目関連図を視覚的に示すことによりカリキュラム体系が分り易い。(勝間田) →**適切**
- ⑪カリキュラムを体系的に、より内容を充実させるためにはカリキュラムポリシーの作成が急務であると思われる。ただ、現時点でも過不足なく体系化されているように見えるが、ポリシーが未完のため「3」で妥当だと思います。(会田) →**適切**
- ⑫科目関連図は視覚的にもわかりやすく体系的に理解しやすい。(小澤) →**適切**
- ⑬見直す点はスムーズに実行してほしいと思います(厚川) →**適切**
- ⑭カリキュラム編成の構築を進めている途中とのことなので、ポリシーに基づいた編成に向けて進めて行ってほしい。(阿部) →**適切**
- ⑮適切な評価を行っており、課題や改善方法を明確に示せており問題ないと思います。(新井) →**適切**
- ⑯カリキュラムの体系的編成、検討の評価は妥当である。(松井) →**適切**

3-23 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切:25 92.6% | 不適切:2 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

- ①例年低い数値を出しているアニメーション科とアニメーション研究科の色彩検定3級、CG映像制作科のCGクリエイター検定エキスパート・ビジネス能力検定ジョブパス3級について、毎年本委員会の検討課題として議題が挙がっているにも関わらず大きな改善につながっておらず、かつ問題解決への提言がされていないことが大変心配です。今年こそ抜本的な改革をお願いしたいです。(石本) →**不適切**
- ②以前から学生コメントとして「この資格取得に何の意味があるのか分からない」と

いう類のコメントが寄せられているかと思えます。そちらのフィードバック体制の有無が見えなかった点（取得すべき資格が最適化されているか）だけ、不安がありました。（井沢）→適切

③高い目標に向かって、目標資格を取得し続けている点から、考えると自己評価は厳しく辛口だと思いますが、応援の意味を込め、適切とさせて頂きました。（舟山）→適切

④資格に関しては確実に年々取得率が上がっており、きちんと取り組まれているんだと思いました。（新）→適切

⑤課題に即し、今後の改善方法にある指導体制の見直し及びカリキュラムの見直しを実施する必要がある。（佐々木）→適切

⑥適切だと考えます。（伊藤）→適切

⑦各学科毎の目標を、理想とする高い目標と現実レベルでの妥協点を明示してしまうのも方法かもしれない。低いレベルの学生に合わせた目標設定では、ポテンシャルを持つ学生のチャレンジを促すことは可能性が低くなる。IT業界では資格偏重は低くなっている感はあるが、下請け構造を考えると、目に見える資格は経営観点では有効な武器になるので、資格は取得できるなら取得すべきであることは変わらない。あとTOIECは業界問わず重視されるので、勉強ぐせがあるときに、少しでも勉強し、受験させてほしい。（渡邊）→不適切

⑧基礎的・体系的な知識の習得のために資格取得に臨むことは、自身の学習の基礎体力づくりとなり、良い糧になることと思えます。引き続き継続されることを期待します。（篠原）→適切

⑨「目標とするレベル以上の資格の取得」の全員取得は高いハードルだと思います。（満岡）→適切

⑩今年度の目標資格の取得率が向上していることは、高く評価できます。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度から資格試験は、試験の中止や試験方法の見直しは必須となっております。学生の安全を図りながら、質保証できる新たな方策を検討して頂きたいと思えます。（森）→適切

⑪学生の将来に関わることでありますので、引き続きよろしく申し上げます。（原）→適切

⑫実績と今後の対応策が具体的な記載されており「ほぼ適切:3」が妥当と判断します。（米井）→適切

⑬各学科、まあまあの取得と思われる（勝間田）→適切

⑭学科によってバラツキはあるが、全体平均は年々向上しているので良好と言える。（松下）→適切

⑮アニメーション科だけが取得率の低さが目立ってしまっているが、全体的には高い水準。（清水）→適切

⑯取得率が低い資格は、就職に必須ではない、または内容が実用的ではない、など必ずしも取得する必要がないものが含まれているのではないかと思います。資格取得の指導体制を整える前に、どの資格を取得させるべきなのかの厳選も必要だと思います。（会田）→適切

⑰評価・課題と項目タイトル（観点）で乖離を感じます。「教育の質保証」等で別項目

を設けると誤解が少ないのではないのでしょうか。(谷) →適切

⑱より一層の資格取得率向上を期待する。(中山) →適切

⑲やはり、全学生が所属学科に応じた資格を取得して卒業するということが望まれます。(小澤) →適切

⑳資格取得に関しては、合格するまでしっかりと取り組むように指導をお願いします(厚川) →適切

㉑就職するうえで必須となる資格は推進するのではなく、資格取得＝単位となるような仕組みでもいいのではないのかなと思いました。(大久保) →適切

㉒実際に資格が取れていない学生もいるので、具体的な指導方法を変えるという改善策に期待。(阿部) →適切

㉓適切な評価を行っており、課題や改善方法を明確に示しており問題ないと思います。(新井) →適切

㉔各学科の資格取得状況と照らし合わせて、評価は妥当である。(松井) →適切

3-24 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：26 96.3% | 不適切：1 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

①適切と評価しましたが、今後は具体的な数値や指標をお知らせいただきたいです。(石本) →適切

②授業の質向上につながる重要な項目だと思います。良い結果に到達できることを願います。(井沢) →適切

③複数の部署で問題解決に向かう姿は大変良いと思います。ぜひ継続を。(舟山) →適切

④専任教員の不足に関しては、これは業界全体の問題でもあり、1年とかで解決できる問題でも無さそうなので、もう少し長期的な視点で、そのような人材をどのように生み出していくか、育てていくかにシフトしていく形を模索してもよいかもしれません。(新) →適切

⑤課題に即し、計画的な選任教員の確保が必要である為、年間を通しての具体的な計画が必要である。(佐々木) →適切

⑥適切だと考えます。(伊藤) →適切

⑦教員採用は重要でかつ難しいかと思います。いい結果が出ることを願っています。(満岡) →適切

⑧人材不足はどこでも一緒ですし大変だと思います。頑張ってください。(原) →適切

⑨将来への課題・対応策が明記されており「ほぼ適切：3」が妥当と判断します。(米井) →適切

⑩良い教育を行うに重要。状況を見て適切に人員配置下さい。(勝間田) →適切

- ⑪現時点では要件を備えた教員の方を確保できているとのことで「4」でも差支えないのではないかと思います。(会田) →適切
- ⑫計画的な選任教員の確保を進めて欲しい。(中山) →適切
- ⑬教員の確保は大変難しくもあり、学園において苦勞されているところだと思います。(小澤) →適切
- ⑭学生が増加傾向であれば教員確保もさらに必要だと思います(厚川) →適切
- ⑮学生の人数が多く、教員が少ないのは負担も大きいので、人数をもっと確保してほしいです。(竹中) →適切
- ⑯現在企業で働いている人材が講師をしてくれるのはとてもありがたいと実感しています。(大久保) →適切
- ⑰一人の教員が複数のクラスの担任をしており、教員の確保が足りていないのではないかと思います評価が不適切だと考えました。(新井) →不適切
- ⑱文部科学省より「高等教育の修学支援新制度」の対象校として認定されているという事実と照らし合わせて、この評価は妥当である。(松井) →適切

(4) 学修成果

4-30 退学率の低減が図られているか

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：24 88.9% | 不適切：3 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

- ①数値減少に加え、学習を理由とした退学についての問題提起もされており大変良いと思います。今後コロナ問題で経済起因による退学も予想されますので、細かいケアを期待します。(石本) →適切
- ②数字として顕在化するため、退学率は重要ですが、裏を返せば、就職率(希望する進路)アップの施策が、結果的にドロップアウト低下につながるという面もあります。退学寸前の学生をケアすることにあまり意味は無く、そうならないように日頃のモチベーションコントロール(施策)が重要になるかもしれません。(井沢) →適切
- ③ドロップアウトの問題は、他の学校でも大きな悩みでゼロにすることは出来ません。しかしながら、事実の数字を受け止め改善に向かう姿勢を止めない点は、本当に素晴らしいと思います。これも自己に対し厳しい評価とは思いますが、適切としています。(舟山) →適切
- ④ドロップアウトの要因は、学校だけで解決できない問題も多々あるのではないかと思います。その中できちんと退学理由を把握し、学習要因にフォーカスし、対策されているのは良い取り組みだと思われます。(新) →適切
- ⑤適切だと考えます。(伊藤) →適切
- ⑥具体的な改善方法が記載されていてわかりやすかったです。(満岡) →適切
- ⑦減少するよう努力して下さい。(勝間田) →適切
- ⑧コロナ禍においてさらに退学率が上昇することを想定し、課題を挙げ、今後の改善方法をもう少し考慮する必要がある。(佐々木) →不適切

- ⑨全体の退学率が減少していることは、良好なことである。(松下) →適切
- ⑩結果としても低減しており、それでも退学に至ってしまうケースの対策や施策考案にも繋げようとしている事が感じられました。(清水) →適切
- ⑪退学率低減のために様々な取り組みをされていることがわかりました。きちんと成果を上げられていると思います。(会田) →適切
- ⑫継続的に出席率向上対策に努めていただきたいと思います。(小澤) →適切
- ⑬対策されていると思います退学に関しては個々の事情もあると思うので避けられないと思います(厚川) →適切
- ⑭ほぼ適切ではなく、適切だと思っています。毎回感心していますが退学率の低減が十分図られているものと思っています。もちろん、結果からは課題が見えてくるため更なる対応は必要があるとは思いますが。(原) →不適切
- ⑮実績値は年度により増減があるのは仕方がなく、増加したから改善点があるとされるものではないように思います。資料からは十分な対策が図られかつ実行されていることがわかるため、「適切：4」が妥当と判断します。(米井) →不適切
- ⑯個人の差がつきやすい専門学校で平均 95%以上というのは確実に効果が出ていると思いました。(大久保) →適切
- ⑰実際に学生がひどいと感じる授業があったりするので改善してほしい。(阿部) →適切
- ⑱退学率は減っており、課題や改善方法も明確にできているため適切に判断していると思います。(新井) →適切
- ⑲退学率低減対策の結果退学率の減少の事実と照らし合わせて、この評価は妥当である。(松井) →適切

(7) 学生の募集と受け入れ

7-46 学生募集活動は、適正に行われているか

| | | |
|------|----------------|-------|
| 評価結果 | 適切：26 96.3% | 不適切：1 |
|------|----------------|-------|

コメント欄

- ①コロナ禍による募集方法の変更など対策が急務だと思われまます。時勢に応じた各種変更は大変だと思いますが対応できるよう頑張ってください。(石本) →適切
- ②数々の施策を講じていらっしゃる点、特に不安などはありませんが念のため、学生の受け入れは、総定数を充足できた、という結果で良いでしょうか？(報告書にその記載がつけられなかったので念のため記載しています。(井沢) →適切
- ③三密をさけるオンライン説明会を先駆けている点、先見の明ありましたね。評価は妥当だと思います。(舟山) →適切
- ④生徒が増えているともお聞きしておりますし、また適正学科へのアドバイスもされているとのことで、全く問題無いと思います。(新) →適切
- ⑤適切だと考えます。(伊藤) →適切
- ⑥オンラインに対する取り組みは、今後大事になってくるかと思えます。品質・満足

度確認は、学校説明会だけでなく全てのオンラインコンテンツのプラットフォームとして保持してもいいと思いました。(満岡) →適切

⑦新型コロナの突発的な課題に急な対応をされたものと思います。お疲れ様でした。(原) →適切

⑧上記の「4. 学習成果の課題同様、コロナ禍において学生の募集と受け入れが厳しくなることを考慮し、今後の改善方法をもう少し考慮する必要がある。(佐々木) →不適切

⑨希望者への適正な配慮が示されており、退学率などの実績力も「適切：4」が妥当と判断します。(米井) →適切

⑩すばらしい広報活動、募集対策である。(松下) →適切

⑪個人相談や体験授業に行った留学生の情報ははじめ、受験者の情報も迅速に日本語学校に共有してくださるので、連携をとって進学指導が進められています。ただ、指定校推薦の応募締め切りが早いので、あと1か月ぐらい余裕があるといいと思います。(会田) →適切

⑫感染症の影響が令和3年4月入学者の学生募集活動に大きな影響を及ぼさないことを望んでいます。(小澤) →適切

⑬オンライン学校説明会を多く実施していくと良いと思う。(本郷) →適切

⑭学科の選択は重要だと思います入学説明会などでもしっかりと伝えてほしいと思います。(厚川) →適切

⑮自分のやりたいことを見つけるのに時間をかけることができる仕組みをこれからも継続してほしいと思います。(大久保) →適切

⑯今年からオンライン学校説明会を取り入れているが、実際に学校で説明を行わないため、学生生活のイメージや学校の雰囲気が感じられないと思うので、工夫すべきだと思う。(阿部) →適切

⑰適切に評価が行われていると思います。(新井) →適切

⑱情報発信媒体等の事実と照らし合わせて、この評価は妥当である。(松井) →適切

(8) 財務

8-5 財務について会計監査が適正に行われているか

| | | |
|------|---------------|-------|
| 評価結果 | 適切：27 100% | 不適切：0 |
|------|---------------|-------|

コメント欄

①特に気になる点はありませんでした。(井沢) →適切

②公認会計士監査のもと、適切に会計監査が出来ていると判断できます。(舟山) →適切

③適切だと考えます。(伊藤) →適切

④コメントは特にありません。(満岡) →適切

⑤問題ないと思います。(原) →適切

⑥「適切：4」が妥当と判断します。(米井) →適切

⑦丁寧な仕事が成されていると思います。(小澤) →適切

⑧適切に評価できていると思います。(新井) →適切

⑨公認会計士監査の実施事実と照らし合わせて、この評価は妥当である。(松井) →
適切

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

今年も細かい部分までお疲れさまでした。古賀先生から船山先生へのバトンタッチもスムーズに行われており、加えてIU開学に合わせて日本電子専門学校がさらなる発展を遂げようとしている気概を感じております。この会議に出席してから何回か申し上げておりますが、このような取組は単年の振り返りよりも複数年でどのような経過を辿ったかという部分が重要だと感じます。点でなく線、線よりは面で問題を捉え見過ごしがたいようにしていただくこと、特に3.の教育活動については経年でどのような問題と意見があったのか、今一度振り返っていただければと思います。

またコロナ禍で企業採用数の減少に加え、企業インターンの実施数が減っているという話も数多く聞くようになりました。今はコロナ問題をどう乗り越えていくのかで精一杯かと思われそうですが、今後採用数やインターン数の確保は大きな問題になるかと思われそうです。こちらの対策も急務かと存じます。ぜひ先生方一丸となって頑張ってください。企業経営にとって恐ろしいのは潜在的な問題を見逃すことです。この評価委員会における意見が潜在問題の掘り起こしの一助になるよう祈っております。(石本)

組織体制が変更になった矢先のコロナ状況があり、諸々大変な状況かと存じます。特に学業関連は、学生の出席に関わる部分(授業内容)と、その先の就職面に大きな影響があるものと推察いたします。そんな中ではありますが、そんな中だからこそ御校の堅実な体制、基盤は強みになると思います。不安定な状況の中でも安定した地盤で支えつつ、また改善が必要なところはフレキシブルに対応ができれば、素晴らしい結果が期待できます。この状況に屈せずに、引き続き結果を出していただけることを期待いたします。(井沢)

コロナで大変な時期だと思いますが、環境に負けず、自己を律し挑戦する姿勢を感じることが出来ました。ぜひ、他の専門学校のお手本になるような姿を目指し頑張ってください。陰ながらいつも応援しています。(舟山)

今回特に不適切は一つもありませんでした。まずはコロナに対してどのように運営していくかという課題が社会全体としてありますので、そこを試行錯誤をしながらどうやって乗り越えていくかを模索していくことが非常に重要だと思いますので、引き続き頑張ってください。(新)

自己評価を拝見し、総合的に「適切」と判断いたしました。(伊藤)

実直に学校評価委員会に取り組みされている貴校の姿勢を高く評価しております。今後の取り組みと進展に期待しており、微力ながらお手伝いできれば幸いです。(篠原)

コロナ禍の中、学校運営はととても大変だと思います。ただでさえ、業務量が多い教職員に消毒・生徒管理等さらなる業務が懸念されると考えます。逆に、業務の細分化・

アウトソーシング活用・オンライン化推進等を行ってスリム化することで、業務改革のチャンスと捉えることも可能かと思っています。

各業態に変化が求められる中、「今まで通り」はいろんな意味で有り得なくなってくるはずですが、日本電子専門学校は、日本のIT系専門学校のフラグシップモデルとしては是非新しいチャレンジと変化を試みてほしいと願っております。(満岡)

新型コロナの影響のある中で、オンライン学校説明会の取組等お疲れさまでした。これからの学校運営は特に変化が必要だと感じています。対面での授業や催しが非常に厳しくなっています。新しい取り組みを学校全体でどのように検討していくか、それにより学生の考え方も変化がでます。ある時には離脱しやすい環境となることもあると思います。ただ、反面、地域に関係なく取り込むこともできます。ぜひ、これを好機と捉え、前向きに新たな教育方法（オンライン授業など）に取り組んでいただきたいと思います。(原)

評価について

高い目標を掲げていることが要因なのかもしれませんが、全般的に自己評価はもう少し高くても良いのではないかという印象を受けました。

資料について

「令和2年度 自己評価報告書（本編 抜粋）」 P 1

私の勉強不足で申し訳ありませんが、「EM」・「IR」の定義について説明があると評価作業がスムーズにすすめられたかもしれません（今も用語の定義を正しく理解しているか不安です）。教育業界では標準的なことかもしれませんが、一般企業ではあまり馴染みがないように思います。

学校の改善について

出席率、退学率も十分な実績だと思います。これからの改善策は「重箱の隅」にならないよう努めていただけたらと思います。

資格取得の意味は習得した技能を証明することにあると思います。出席率・退学率などとは区別し、100%にならなくても価値のある資格の高い合格率を掲げて取り組むことで将来的には学生に大きなメリットがあると思います。次のステップとして価値ある資格に絞った資格取得目標とすることを検討してみる価値はあるような気がします。(米井)

各項目の評価が③が多いので、更に努力・改善したいとの学校の判断と思われる。良い姿勢です。④に甘んじる事なく、努力下さい。(勝間田)

本年2月からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校運営、学生募集、学園経営等あらゆる面で、大きな影響があると考えられますが、専門学校・大学とも教職員が一体となって、この難局を乗り越えられることを期待しております。(松下)

全体的に細かくまとめられており、不適切な内容もなく良好であると感じました。

入学者数の増加が続いているとの事で、これも非常に良い事ではありますが、その分、対応も大変になってくると思われるので、質の低下につながらないように、人員確保等々含めて進められると良いのかなと感じました。(清水)

受験者、在校生、卒業生の情報を電話や来校して直接情報提供してくださる際に、一人一人の状況や性格、希望進路などを細かく把握されていると感じます。留学生に親身になって対応してくださるので、1度相談すると安心してまた相談に行き、何度か相談や体験授業をして納得してから受験を決める学生もいます。

また、当校から貴校への進学者の出席率が高いのは、貴校の退学率を減らすための取り組みの賜物でもあるのだと思いました。出席率を上げることが大切だということで、出席率の下がっている学生がいたら、担任の先生だけではなく、留学生サポートの方が何度も学生と面談し、根気よく改善に努めてくださっているのも印象的でした。今後とも、全体数が多くて大変だとは思いますが、留学生にも一人一人きめ細やかな対応をお願いしたいです。(会田)

NEXT10 が確実に前進しており素晴らしいと思います。

今後はコロナ化により授業実施、就職率等への影響が長期的にあるものと想定されますがしっかりと変化に対応をなされるのだろうと信頼しております。(谷)

今まで、誰にとっても未経験の環境下で、学園の皆さん、スタッフ一同が一致団結、力を合わせて、難局を乗り越えていただき、専門学校界をリードして下さい。(小澤)

この状況での授業、就職活動は難しくなっていますが、学校側では、オンライン授業やメールなどでの授業、連絡をして対応して下さっていることに感謝しております。今後も難しい状況ではありますが、新しい授業形式を検討していただき、学生が学びやすい学校にして頂きたいと思っております。今後も宜しくお願い致します。(本郷)

コロナ禍での対策は大変だったと思います。オンライン授業も始まり、このような新しい授業スタイルも必要だと思いました(厚川)

現在の学校運営は適切であり、改善すべき点は特にありません。(竹中)

新宿近辺のコロナ感染者数が多い中、感染者が一人に抑えられているのは学内の徹底したコロナ対策によるものだと思います。学生としてうれしい限りです。ただ、先生たちの授業内容の連携というものが取れているのかが心配になります。

オンライン授業で自宅の pc 環境が人それぞれで授業によっては動作が止まってしまう恐れがあるのではないかと思います。自宅の pc から学校の pc を遠隔操作できるようにするなど PC 環境に対する対策を学校に行く以外の選択肢を増やしてほしいかなと思いました。(大久保)

今後も学校をより良いものにするために改善を重ねていってほしいと思います。(阿部)

ほとんど評価が正確に行われており素晴らしいと感じました。自己点検評価報告にて課題、改善方法を明確に示せており、改善の結果が数値として表れてとても良いと思います。今後も正確な評価を行い、よりよい学校になるように取り組んでほしいと思います。(新井)

今年は新型コロナウイルスの影響で学生、教職員共に大変ではあるが、早く平常通りの学校生活に戻れるよう頑張ってもらいたい。(松井)